

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12407

研究課題名（和文）「色葉字類抄」を中心とする国語辞書の語彙・系譜の研究

研究課題名（英文）A Comparative and Genealogical Study of the Vocabulary Included in the Old Japanese Dictionary: Focus on the Iroha Jiruisho

研究代表者

藤本 灯 (FUJIMOTO, AKARI)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：20733017

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究における主要な成果を下に記す。

1. 本邦国語辞書の祖である『色葉字類抄』には、藤原定家の日記『明月記』に使用された漢字のほとんどすべてが収録されていることが明らかとなった（ただし調査範囲の語に限る）。また収録されていない熟語群の性格から、『色葉字類抄』の編纂意識が窺えた。
2. 共同研究により、日本の古辞書におけるカナの訓注と漢字字書における中国由来の単漢字義注との間に一定の対応関係が認められることが実証された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、古辞書の語彙の一部を母体として他の文献の語彙と比較し、古辞書の性格を論じることが多かったが、本研究では、他の日本語文献の連続した語彙を母体として、古辞書全体の語彙と比較する手法をとった。『色葉字類抄』の語彙と古記録語彙との重なりをこのように実証的に示した点、また現代語辞書との編纂意識の差異について考察した点に大きな意義があったと考える。

研究成果の概要（英文）：The main contributions of this research are described below.

1. This research has clarified that Iroha Jiruisho, the ancestor of the Japanese dictionary, contains most of the Chinese characters used in Fujiwara no Teika's diary Meigetsuki. Moreover, considering the character of the compound words that are not listed in Iroha Jiruisho, the purpose of the editing it has become clear.
2. Through joint research, it was demonstrated that there is a certain correspondence between Kana kun'yomi in old Japanese dictionaries and word interpretation in Chinese Kanji dictionaries.

研究分野：日本語学

キーワード：色葉字類抄 古辞書 国語辞書 語彙

1. 研究開始当初の背景

本邦古辞書の研究は、系統関係や語彙の出典、音韻・表記など、様々な視点から行われているが、ある辞書の語彙全体を、辞書成立当時の語彙使用実態と比較したものは少ない。また、直接影響関係のない辞書の語彙同士を比較したのもほとんど見られない。

2. 研究の目的

本研究は、本邦国語辞書の祖である『色葉字類抄』を中心に据えながら、日本で編纂された国語辞書の収録語彙の性格と変遷を追究するものである。またそれにかかわって、国語辞書データベースの構築と活用の検討を進めることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、以下の項目にしたがって行った。ただし(A) の新規調査については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送った。

(A) 平安時代の国語辞書『色葉字類抄』の研究

収録語彙に関する研究 伝本に関する研究

(B) 平安時代～明治時代における本邦国語辞書収録語彙の変遷の研究

国語辞書間での語彙の比較研究 国語辞書と辞書以外の文献の語彙との比較研究

(C) 古辞書のデータベース化とその活用

『色葉字類抄』データベース化 構造化 既存データベースとのリンクの検討

4. 研究成果

『色葉字類抄』所収語彙の研究、古辞書データベース構築、共同研究、学会発表を行った。また、本研究について、受賞した。具体的には以下の通りである。

【語彙研究】

・藤原定家の日記である『明月記』に使用された語彙が、古辞書である『色葉字類抄』に採録されているか、また採録されているとすればどのような部立てに分類されており、その分類方法は日記を記すために適したものであるか、という点について調査を行い、第118回訓点語学会研究発表会(2018年5月13日)にて研究発表「古辞書の意義分類と古記録 『色葉字類抄』と『明月記』を例として」を行った。結果として、『明月記』(治承4年の記事30件)で用いられる単字は『色葉字類抄』にほぼ収録されていること、熟語形を含めても7割近くが収録されていることなどが明らかとなった。発表の内容に加筆修正し、『和漢語文研究』18号(2020年11月)に投稿し、掲載された。(「古辞書の意義分類と古辞書 『色葉字類抄』と『明月記』を例として」)...(A) ・(B) に相当

・日本学術振興会外国人特別研究員(京都大学所属)の李媛氏と日本の古辞書『篆隸万象名義』『類聚名義抄』『色葉字類抄』における義注と訓注の関係についての共同研究を行い、日本語学会2018年度秋季大会(2018年10月13日)にて研究発表「平安時代の字書・辞書間における義注・訓注の重なりについて」を行った。結果として、日本の古辞書におけるカナの訓注と漢

字字書における中国由来の単漢字義注との間には一定の対応関係が認められることが実証された。... (A) ・(B) に相当

・近代語学会研究発表会(2019年6月1日)にて、近世節用集の部立てについての研究発表「辞書の部分けについての一考察 中世・近世を中心に」を行った。... (B) に相当

・共同研究として、近世節用集(『節用集大系』100巻所収のもの)を対象として辞書の部立ての説明文を精査し、翻字を行った結果を査読誌に投稿し、掲載された。(藤本灯・森上亜希子「近世節用集における部分けの研究 翻刻」、『和漢語文研究』17号、2019年11月)... (B) に相当

【古辞書データベース構築】

・「色葉字類抄」と他の辞書のデータベースを連携する上での課題について検討し、「平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立」(基盤研究(B)、代表者:池田証壽、16H03422)の連携研究者として、国際シンポジウム「古辞書研究の射程」に参加し、研究発表「国語辞書系古辞書データベースの展開 字類抄における音訓表記の検討を中心として」を行った。... (C) に相当

・「三巻本「色葉字類抄」収録語彙データベース」の語彙入力を進めた。またデータベースの公開ホームページを移動した(<http://akrf.xsrv.jp/jiruisho/>)。2020年1月の段階で公開中の語群は「重点」「諸社」「諸寺」「姓氏」「名字」の5部である。...(C) に相当

【受賞】

・2018年9月、既刊の『色葉字類抄の研究』(勉誠出版、2016)ならびに「『色葉字類抄』「雑物部」の研究」(『国語語彙史の研究』37、2018)に対し、学術賞(田島毓堂賞、公益信託田島毓堂語彙研究基金)を受けた。

・2019年6月、『色葉字類抄』の所収語彙研究ならびに伝本研究に対し、京都府公立大学法人教職員表彰(功績表彰)を受けた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 藤本灯	4. 巻 18
2. 論文標題 古辞書の意義分類と古辞書 『色葉字類抄』と『明月記』を例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和漢語文研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤本灯・森上亜希子	4. 巻 17
2. 論文標題 近世節用集における部分けの研究 翻刻	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和漢語文研究	6. 最初と最後の頁 225-258
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤本灯	4. 巻 37
2. 論文標題 『色葉字類抄』 「雑物部」の研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語語彙史の研究	6. 最初と最後の頁 183-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤本灯	4. 巻 843
2. 論文標題 書評と紹介 「蜂矢真郷著『古代地名の国語学的研究』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 94-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 辞書の部分けについての一考察 中世・近世を中心に
3. 学会等名 近代語学会研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 古辞書の意義分類と古記録 『色葉字類抄』と『明月記』を例として
3. 学会等名 第118回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 国語辞書系古辞書データベースの展開 字類抄における音訓表記の検討を中心として
3. 学会等名 国際シンポジウム 「古辞書研究の射程」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛・藤本灯
2. 発表標題 平安時代の字書・辞書間における義注・訓注の重なりについて
3. 学会等名 日本語学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------